

## 27PE-am002

東北薬科大学における早期体験学習と今後の課題

○佐藤 厚子<sup>1</sup>, 古澤 忍<sup>1</sup>, 鈴木 稠徳<sup>1</sup>, 沼澤 光輝<sup>1</sup> (<sup>1</sup>東北薬大)

【目的】本学では、平成 11 年度より薬学概論（必修）の一部として早期体験学習を導入している。薬学教育 6 年制においては、1 年次前期に単独の単位として薬学早期体験学習を新設した。本学習の教育目標は「薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために、病院・薬局・製薬企業など卒業生が活躍する現場や福祉に関わる現場を体験し、将来、医療の担い手となる心構えを身につける」である。2 年目を迎えた薬学早期体験学習について、今年度の実施内容と学生アンケートの結果からその成果と今後の課題を報告する。

【方法】薬学科 1 年次 328 名を対象に、薬局、病院、福祉関連施設の見学は全員に実施し、製薬工場・検査施設の見学は希望者のみ実施した。薬局は 1 グループ 2～3 名、病院と福祉関連施設は 1 グループ 5 名を基本として行った。薬局以外の施設には引率教員 1 名を同行させた。ご協力いただいた施設数は、薬局 73、病院 37、福祉関連施設 42、製薬工場・検査施設 10、合計 162 施設である。薬局ではほとんどの施設で調剤を体験した。本学習は、講演会、事前説明会、施設見学、報告書提出、SGD、発表会の順で実施した。発表会終了直後、参加した 327 名の学生にアンケート調査を行った。

【結果・考察】アンケート調査の結果、早期体験学習を多くの学生が高く評価していることがわかった。特に、「薬剤師の役割や使命を理解するために役立った」と「コミュニケーションの重要性を理解するために役立った」と答えた学生は 90% を超えた。薬局での調剤体験は好評で学習に対するモチベーション向上に役立ったというコメントが多かった。一方、福祉関連施設の見学意義が十分理解されていないことが判明したので、今後の課題のひとつとして検討していきたい。